

表 1 佐渡島内観光の課題

課題項目	課題内容
1. 旅行費用	<ul style="list-style-type: none"> 例えば関東圏から宿泊観光に行く場合、ツアー商品として北海道より割高となる。その高さをカバーできる魅力づけを行うとともに、交通機関、宿泊施設等観光関連事業の総合的努力が求められる。 特に佐渡汽船の車両航送費、ジェットフォイル代、万代島の駐車場料金の高さに不満が多い。
2. アクセシビリティ	<ul style="list-style-type: none"> 航空便が新潟空港からしかなく、関東や関西圏からはいくつもの交通機関を乗り継がなくてはならない。今後佐渡空港の整備による直行便が期待される。 外国人観光客のチャーター便の利用ができない。 このアクセシビリティの悪さのために、最低2泊しないと主な観光地を回ることができず、旅行費用の増加にもつながっている。
3. 島内交通	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関が島内の観光地をネットワークしていないこと。タクシーやレンタカーなどの観光客向けの安くて便利なシステムがほとんどないことなどから、島内の移動に対する経済性や利便性に課題がある。
4. 食や料理	<ul style="list-style-type: none"> 新鮮で美味しい魚料理を期待して来島する観光客は多い。しかし、その魚料理にバラツキが多く不満が寄せられる場合も多い。流通システムの改善等によって、新鮮で美味しい魚が島内に優先的に出回ることが重要。 食に関するイベントも行われているがグレードの低さが目立つものもある。
5. 観光地の施設や景観への取組み	<ul style="list-style-type: none"> やや旧態然とした観光地が目立ち、洗練されたデザインや景観への配慮が望まれる。 特に土産店舗の配置や施設のデザインなどに工夫が求められる。
6. 宿泊施設や接客サービス	<ul style="list-style-type: none"> エージェン트에寄せられる苦情が他地域より多い。 エージェン트에依存体質の高い宿泊施設が多く、宿泊単価は下がっているのに、集客のためにエージェン트에手数料はむしろ高くなる傾向も見られる。そのために客へのサービスレベルが下がるという悪循環も見られるようになってきている。
7. 来島旅行者の高齢化	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の主流が高齢者で、ファミリー層や若者が少ない。
8. 産業観光、産業連携	<ul style="list-style-type: none"> 佐渡には酒造り、陶芸、竹芸などに個性的な産業があって、これらは観光と結びついている。しかし漁業、農業、鉱工業なども佐渡を特徴づける重要な産業であるにもかかわらず、観光との連携がうまく行われていない。
9. マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 観光客のリピーターの比率が低い。 オフシーズン対策と新たな旅行商品の開発が必要。 旅行ニーズの多様化に対する情報の収集と分析が必要。
10. PR戦略	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊客の誘致では、これまでエージェン任せの場合が多く、独自の工夫によるPR戦略をあまり展開してこなかった。 旅行者のニーズに合わせたPR戦略が必要。
11. 外国人観光客	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実績では観光客に占める外国人の比率は極めて少ない。 平成15年に策定された佐渡観光アクションプランにも外国人観光客に関することは全く触れられていない。

4. 訪日外国人旅行者の現状

1) 日本を訪れた外国人旅行者

2002年度観光白書によると2002年(平成14年)中に日本を訪れた外国人旅行者数は、前年比9.8%増の524万人と、初めて500万人を突破した。

2002年にはワールドカップ関係の観光客が訪日外国人旅行者数を押し上げたことは確かであるが、韓国や中国からの訪日観光客の増加に加えて、台湾、香港の旅客が回復してきたことが要因として挙げられる。

平成15年度版観光白書によると、平成14年は韓国が日韓共催の2002ワールドカップが開催されたこともあり、訪日外国人旅行者は12.2%増の4年連続第1位となった。上位10ヶ国の訪日外国人旅行者の推移は以下に示すとおりで、不況回復後の韓国の伸びが目立つ他、中国が着実に増加してきている。

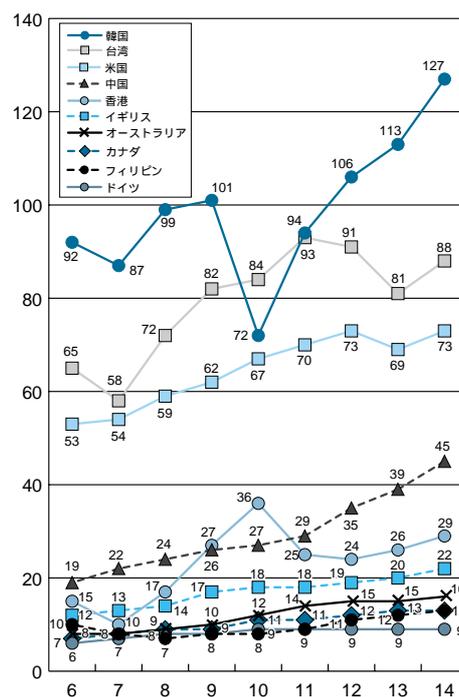


図1 上位10ヶ国地域からの訪日外国人旅行者数の推移 (「平成15年度版観光白書」国土交通省：2003年7月)